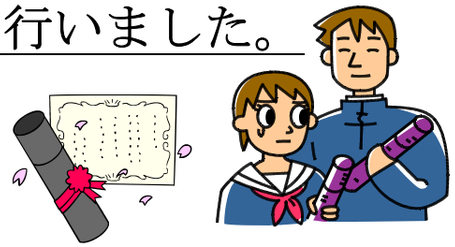
赤塚中学校だより　「赤中プライド」
平成２９年３月１０日
HPアクセス数　１７１５１０
「時間を守る」「話をきちんと聴く」「清掃にしっかりと取り組む」　No.４５

厳粛に第61回卒業証書授与式を行いました。



式の良しあしは，会場の装飾の度合いではなく，式に臨む主役たる生徒の言動（態度や返事，歌）にあると考えています。その言動を支えるのが，一人一人の意識と指導者です。素晴らしい式でした。

式辞

≪　略　≫

さて，ただいま卒業証書を手渡しました122名の卒業生の皆さん，ご卒業おめでとうございます。皆さんは，法に定められている９年間の義務教育を無事修了することができました。

私は，皆さんが三年生に進級したばかりの１年前に，この赤塚中学校に赴任してきました。今でも鮮明に記憶に残っていることの一つに，皆さんの始業式に臨む姿があります。今，目の前の卒業式の姿同様に「学校の顔」としての決意ある姿を見ることができたのです。そして，始業式のあとには生徒会の本部役員の生徒の皆さんを中心に，「赤中プライド2016」を確認し，互いに共有しあったのです。この取組に，生徒会活動を核とした自治的な活動の充実ぶりを見ることができ，この充実こそが，今の赤塚中学校の原動力であり，真髄でもあると実感できました。この自治的な取組は，その後の各学年中央委員会での様々なキャンペーンでの取組や体育祭，合唱コンクールでの実行委員会としての取組などに実を結んだことは，皆さん自身が十分に実感していることだと思います。

中でも例のない驚きの取組は，前期生徒会が手がけた「赤中ナビゲーション」通称アカナビの作成です。私自身も４校目の中学校勤務となりますが，「自分たちの課題を学力である。」としての取組は初めての経験でした。先に卒業していった生徒会長の皆さんの勉強法や，やる気スイッチの入れ方，息抜きの方法などをまとめたこの冊子は今でも校長室に掲示してあります。

今，赤塚中学校では，３つの小学校と連携して特別活動に力を入れています。昨年度から始まった児童会・生徒会リーダー会議がその中心となる活動です。

「自分の学校は，自分たちの手でよくしていく」「自分たちの課題を見つける目をもつ」「自分の生活を見直し，自ら改善していこうとする」この精神こそが，これからの不透明な社会の中で将来を確実に生き抜くために必要な資質であると考えています。

昨年の４月に改訂された「茨城教育プラン」には，テーマの中に「子どもたちの自主性・自立性の育成」が明示されました。赤塚中学校区の４つの小中学校では，在籍する児童生徒が一体となって，この「自主性・自立性」を育むための活動がすでに始まっています。赤塚中学生が模範を示すことで，中学生の姿にあこがれをもって新入生が入学してくる。もうすでにそんな時代に入っていると思っています。その足がかりを君たち卒業生が作ってくれたのです。

そして，記憶に残っていることのもう一つに，６月からの市総合体育大会を始めとした部活動への取組があります。体操部の関東大会団体の部第２位，全国大会第８位を筆頭に，市の大会，中央地区大会，県大会に向け互いに声を出し合い，最後まで全力で取り組んだ姿が忘れられません。試合では対戦相手がいます。どの競技会場でも，中々自分たちのシナリオ通りのゲームや演技にはならず，その瞬間の出来事に一喜一憂していたことを思い出します。応援している者をハラハラドキドキさせながらも最後まであきらめずに取り組み，数々のドラマを見せてくれました。その結果として，勝って喜びに沸く顔，負けて涙にむせぶ背中，演奏を終えてほっと息を吐く姿，正に，全力を出し切った証です。常にチームの一員として，互いを信じ，手を取り合って喜びを表現するなど，絆を深め合った仲間同士の姿を見ることができました。一つの目標に向かって，全員で努力する。それぞれが役割を果たす。このことが部活動で得られた成果ではないかと思います。

ご存知のとおり，部活動に取り組む意義は，輝かしい成績を納める過程にあります。32年前の昭和60年11月に発行された赤塚中学校の創立30周年記念誌「懐かしい歳月」に掲載されている卒業生の作文の最後の一文を紹介します。それは，昭和57年度の卒業生で，当時陸上部に所属していた生徒の作文で県総体で初優勝を飾った思い出をもとに書かれた文章です。

「現代の世の中は，結果でしか価値を見い出すことのできない人が多くいます。しかし，僕は，赤塚中陸上部が県総体で総合優勝したという目に見える事実よりも，苦しい練習に負けずに頑張ったという目に見えない事実があったということを評価してほしいのです。」と結ばれていました。

この「苦しい練習に負けずに頑張ったという目に見えない事実」という言葉は，正に，本校の目指す「文武不岐」の精神につながるものと言えるのではないでしょうか。学問も部活動もよりよい結果を求めて努力をするものです。必ず結果は出るものですが，実は，その過程での負けずに頑張った目に見えない事実にこそ，意義があるのだということを忘れないでください。これからの人生の大きな礎となることと思います。

卒業にあたり，皆さんに伝えたいことがあります。

その一つは，「人は一人では生きられない。」ということです。これは，私の信条でもあります。誰でも人は，家族や先生，地域の方などたくさんの身近な人に見守られ，関係して育てられています。皆さんもこれまでの15年間を思い出して見てください。友人と遊んだり，おしゃべりをしたりしたことはもちろん，様々な人に助けられ，たくさんの方から助言や愛情を受けたこと，それらがあるからこそ，今，こうして元気に卒業が迎えられているのではないでしょうか。

愛情にはいろいろな表現があります。あなた方にとって，温かく感じ，受け入れやすい愛情もあれば，時には厳しく，突き放されるように感じられる愛情もあります。どちらの愛情も，受け手であるあなた方の心次第で受け止め方が違ってきます。自分に向けられているいろいろな愛情や期待に気づき，常に感謝の気持ちのもてる人になって欲しいと願っています。

もう一つは，ＰＴＡの親子学習講演会で講師をお勤めいただいた腰塚勇人先生からの言葉です。皆さんもよく覚えていることと思います。それは「過去」と「他人」は変えられない。変えることができるのは「未来」と「自分」だけと話されていたことです。これからの考え方，生き方として自分の行動に結びつけ，よりよく生きる自分づくりを行い期待のもてる未来を創ってほしいと思います。

さて，明日で東日本大震災から六年になります。時が経つにつれ，震災の記憶が人々の記憶から薄らいできている気がします。この辛く，悲しい経験は，人々がつながりを失わないこと，いつの時代でも手を取り合って協力し合って生活していくことの大切さを思い起こさせてくれました。正に，「人は一人では生きられない。」「手をつなぐことで，何倍もの成果を納めることができる。」そんな気持ちになれたことを記憶しています。卒業生の皆さん，この赤塚中学校で出会った仲間との絆，先生方との触れ合い，教えを忘れずに大切に育てていってください。

在校生の皆さん，卒業生が巣立っていく日となりました。４月からは皆さんが赤塚中学校を育てていく主役となります。これまで，卒業生が築き上げてきた「赤中プライド」の意識を，より強固に，より高みに積み上げていってほしいと思っています。特に，二年生の皆さんは，四月から義務教育最後の最上級生として「学校の顔」となります。卒業生が巣立った明日から，どんな顔として，自分たちの学校，そして赤塚中学校区をより良くしていくのか，皆で協力し合い，話し合い，知恵を働かせて取り組んでみてください。大きな期待を込め，楽しみにしています。

≪　略　≫

それでは，卒業生の皆さん，健康に十分気をつけ「赤塚中の卒業生」としての誇りを持ち，それぞれの夢がかなえられるよう一日一日を大切に生活してください。これからの成長を楽しみにしております。以上をもちまして，式辞といたします。